

2018年10月から2021年2月のスペクトル解析結果と考察(関口孝志)

8台のカメラ観測で、ほぼ2年4か月で2392個のスペクトルが得られた。今回のデータは、2018年10月から2021年2月までの解析をし、8つのタイプが得られた。Feが50-80%になっているタイプが46個得られた。Fe richのタイプであることが2019年の論文から分った。発光高度とNa/Mg比や速度によるタイプの違いを調べ速度によって違いが見られた。解析結果を元にQua群Com群Per群Tau群や小流星群のタイプ別に分類し比較した。Gem群の三角図を作成し考察した。今回は、ふたご群の“年とカメラ”による三角比やタイプ別の割合等を比べ、違いが見られた。また、色々な方法でNaの枯渇が見えてきた。8月のはくちょう群と思われるスペクトルと軌道の結果から似たような光度変化をしていてタイプは、NormalとFe poorが多いことが分った。